

横浜市立 山下みどり台小学校 学校評価報告書 (令和元～3年度)

| 重点取組分野 | 令和元年度 | 自己評価結果 | 総括 |
|------------------|---|---|----|
| 確かな学力 | ①授業力向上のための取り組み 重点研究主題「資質・能力を育成する学び〜子どもは中心に授業研究をすすめるのか〜」を設定し、算数科を中心に授業研究を行い、読書活動の充実をめざす。読書の記録表が回ると、読書週間を取り組みにより、読書量の増加をめざす。 | ○資質・能力の育成には、育成すべき内容の教材研究、指導法と指導技術の向上と同時に、子どもを育むための学習活動の見直しも必要であることがわかった。読書改善が、司書の取組、意欲向上が図られた。読書委員、司書の取組もあり、少しずつ増えている。 | A |
| 豊かな心 | ①全教員活動における道徳教育と道徳の時間との関連を重視し学習の総合化を図る。○児童会の取組として、あいさつ運動に全校で取り組むとともに、異学年交流やシーズンコンサーンを通して、友達を認め合い励まし合おうとする気持ちを育てる。 | ○学習場面だけでなく、特別活動や行事における子どもも像を実現への手だてが効果的を上げ、他を受容しつつ、互いに高め合う集団形成ができていく。○縦割り活動等を通して、年齢にとわれないかかわりから、思いやる心が醸成されている。 | A |
| 健やかな体 | ①「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活をしようとする態度を養うとともに、集会活動を楽しく体を動かす活動を取り入れ、進んで運動しようとする態度を育成する。○自己の成長のために、主体的に課題発見・解決できる子どもを育成し、体育科を中心とした授業改善を行う。 | ○学校保健委員会において、歯の健康についての日常的な取り組みを展開し、歯検査の結果を向上させた。○メンター研などを通じて、体育学習の充実を向上させた。体力向上策については、体力向上アクションプランの具体的な取り組みの充実を図る必要がある。 | B |
| 児童指導 | ①児童理解研修を行い、より深く広い児童理解が努め、指導の充実を図る。○空き時間の教員が校内を回り、授業補助に入り、取り出し指導を行ったりして、多くの教職員の目で児童を見ていく。 | ○全教職員で全児童を見ていく姿勢と体制が形成でき、広く深い児童理解と児童指導を実現することができた。○児童支援専任、特別支援コーディネーターが、児童を大切に抱擁し、若手教員へのアドバイスも積極的に行い、安定した児童指導体制が構築できている。 | A |
| 特別支援教育 | ①取り出し指導の充実を図り、一人一人に学ぶ楽しさを感じさせ、意欲を高めていく。様々な制度を活用して、特別支援教育の充実を図る。②特別支援教育、ユニバーサルデザインについての研修を行う。 | ○週一日の特別支援教育、児童支援専任を中心に、個別指導計画等の立案と取り出し指導の質的充実を図る。○児童支援体制を活用し、教室内での支援の充実を図る。○特別支援教育、ユニバーサルデザインについての研修を行い、指導力向上をめざす。 | A |
| 地域連携 | ①学校菜園のよりよい活用について検討する。ただ、栽培活動をするのではなく、そこから広がる学習につなげられるよう検討していく。②地域の公園清掃を継続していく。 | ○菜園委員会の協力を受け、土に親しむ活動を継続的に行うことを通じて、子どもたちの情操教育に大きく寄与している。○既存のボランティア活動以外にも学習ボランティアの充実を図ることができた。 | A |
| 学校運営協議会 | ①学校運営協議会を中心に、保護者も巻き込んだ「おらが学校 参画プラン」を立案・実施していく。②各種ボランティア活動を明確にし、学校運営協議会も巻き込んだ、学校力向上をめざす。 | ○学校運営協議会のメンバーには、古い教育観、学校観が残っていたが、これらから脱却しに必要などについて理解を図ることができた。○学校においてはたき方改革についての理解と協力を得ている。 | B |
| いじめへの対応 | ①年間3回のYPアセスメントを実施し、実態の把握を進めるとともに、課題に対応したYPを実施し、よりよい人間関係の形成を目指す。②小さなことでも見逃さず、一人で抱えず、いつでも共有することを通して、いじめを防ぐ。 | ○担任、専科、児童支援専任、養護教諭、管理職が、話しやすい雰囲気を作り、一人で抱えず、チームで対応する体制を整え、子ども、保護者からの小さな兆しを把握し、早期対応してきた。その都度、丁寧に対応する教職員の育成にもつながっている。 | A |
| 人材育成・組織運営(働き方改革) | ①資質・能力を育成する授業を明らかにするとともに、授業力の向上の具体的な方法を明らかにする。②子どもに関わる時間を確保するために、業務の精選をするとともに、時間の使い方を意識して、子ども中心の学校運営のための働き方改革をハード、ソフト両面から検討し実施する。③主要会、推進委員会など、各会議の役割を明らかにする。 | ○主体的・対話的で深い学びをする教員が育てられている。○学年主任、教務部、主幹教諭には、随時、研修を行い、今までの仕事観にとらわれることのない、役割を創出していき、業務を育てていく。○業務を見直し、本当に必要なことと簡略化や省略できることを意味して、働き方を検討してきた。 | A |
| ブロック内評価後の気付き | ○学習に向かう姿勢、表情、ノード指導などしっかりと指導され、落ち着いた学習環境が実現している。○中学校との合同交流、吹奏楽交流、部活動体験、生徒会訪問など、児童生徒との交流活動は、双方により影響があり、今後もより良い交流の形を模索しつつ継続していく。○中学校ブロックの授業交流、夏休休業中の研修等、子どもの理解や授業力向上のためにも有効であった。 | ○小中連携担当者会議を行い、感染症防止対策をはじめ、卒業生の行事開催、来年度の行事予定等の情報交換を行うことができた。児童指導においては児童支援専任を窓口にも頻りに情報交換を行い、児童指導に生かすことができた。また、コロナ禍のため部活動体験はできなかったが、中学校より生徒会や部活動の紹介DVDが届き、6年生の指導に活用することができた。 | A |
| 学校関係者評価 | ○学校運営協議会を定期的に開くとともに、学校だよりで学校の方針、子どもたちの活動の様子が記述されているので、学校の動きがよりわかりやすい。○問題が発生していないことが、実績として評価できる。○挨拶をする子どもとそうでない子どもが、これからも課題である。 | ○コロナ禍においても、学校が感染症に気を付けながら、限られた条件や時間の中で最大限の教育効果を出しているように工夫した取組を行っている。保護者や児童、教職員の学校評価アンケート結果の細かくてまた公開してくれてありがたい。地域として協力できることはできるだけしていきたい。今の山下みどり台小の子どもたちに必要な力を見極め、子どもたちのためにいい方法は何かののかという視点で授業や教育活動を進めてほしい。子どもたちの道路の歩き方やあざさつ等がさらによくなるように」というようなご意見をいただいた。 | A |
| 中期取組目標振り返り | ○半数以上が異動により変わった職員集団に対して、取組目標の共通理解を丁寧に行っていた。めざす子ども像についても、その根拠が新学習指導要領の理念に沿っていることによりは、本邦の強みと弱みを分析し、取り組むべきことの共有と実際の取組の理を促す。手だてを打ち、少しずつではあるが、効果が上がってきている。ただ、知識・技能偏重の方に拘泥する面もあるため、次年度も丁寧な目標共有を行うとともに、具体的な手だてを振り返り共有する必要がある。○働き方改革については、手だてでの工夫はかなり進んだが、意識面での改革を進める必要がある。 | ○コロナ禍での学校運営であったが、限られた条件の中でもより充実した教育活動を行うと教職員連は、積極的に行き、実行していくことが出来た。地域、保護者、児童、教職員の学校評価アンケートの結果から、中期取組目標はおおむね達成できていると捉えている。いじめ、不登校についても予防的取組をすすめる、発生時には早期の段階で対応し、対象児童と保護者の気持ちに寄り添った丁寧な対応を行うことが出来た。次年度は、教職員個々の授業力、指導力、対応力の向上を目指した校内職員研修の充実と働き方改革の推進を図っていく。 | A |

| 重点取組分野 | 令和2年度 | 自己評価結果 | 総括 |
|------------------|---|---|----|
| 確かな学力 | ①3つもの資質・能力をバランスよく育成するための授業像を明らかにし、それを実現するための授業力向上と子どもも学習活動の見直しを検討していく。②ユニバーサルデザインの実践を推進し、学習への取り組みやすさを実現する。③読書活動の充実を図る。 | 臨時休校に伴い、削減した授業数の中で、学習指導要領の各学年、教科、領域における学習内容を確実に実施し、授業の質の向上を図る。②ユニバーサルデザインの実践を推進し、学習への取り組みやすさを実現する。③読書活動の充実を図る。 | B |
| 豊かな心 | ①めざす子ども像の実現のための活動を組織することを通して、多様性の尊重、協働する心など、道徳の時間とリンクさせ、道徳性の向上をめざす。②縦割り活動、土に親しむ活動と学習活動全般を通して、人と人かかわる豊かな心の醸成をめざす。 | 限られた条件の中で、子どもたちにとって充実した学習生活を実現するために、縦割りの特活行事や、宿泊行事の代替としての日帰りバスツアー、各学年、学級で仲間のかかわりを大切に学習活動、体験的な学習活動を通して児童の豊かな心の醸成を行った。 | B |
| 健やかな体 | ①学校保健委員会において、年間テーマを設定し、各学級ごとに日常的な取り組みを行う。体力テストの結果をもとに、体力向上アクションプランを見直し、各学年に応じた具体的な取り組みを行う。 | 養護教諭が学級担任と連携し、積極的に保健指導や授業を行い、子どもたちの自分の健康を守るための意識を高くすることができた。感染症防止に向けての指導を継続して行い、マスクの着用、手洗い、適切な距離をとることができ、着食時(話すをしない)等が徹底することが出来た。 | B |
| 児童指導 | ①児童支援専任教諭の交代に伴い、円滑な引継ぎを行うとともに、継続的な児童理解・児童指導の充実を図る。②全教職員で全児童を見ていく体制を確立しつつ、子どもの変化を敏感に察し、組織的に対応していく。③児童理解・指導研修を行い、職員の指導力向上をめざす。 | 児童間の問題や家庭内での問題、特別な配慮と支援が必要な児童への対応等、実践を通して児童支援専任教諭を中心とした支援・指導体制の構築を進めることが出来た。次年度は、職員個々の対応力、指導力を高める職員研修の充実を図っていく。 | A |
| 特別支援教育 | ①特別支援教育コーディネーター、児童支援専任を中心に、個別指導計画等の立案と取り出し指導の質的充実を図る。②特別支援教育、ユニバーサルデザインについての研修を行う。指導力向上をめざす。 | 子どもたちの実態を把握し、特別な支援が必要な児童や困り感をもっている児童の対応に特別支援教育コーディネーター、児童支援専任、養護教諭、学級担任が連携し、組織的に支援体制を整え対応した。また、保護者への情報共有も丁寧に行い、理解と協力を得ながら進めた。 | A |
| 地域連携 | ①菜園委員会の活動の継続と充実を図る。②既存の各種ボランティアの継続と休み時間等を活用した計算ボランティアのような学習支援の活動をさらに活性化させる。③地域の資源を活用した総合的な学習の時間の充実や教材の開発を進める。 | 臨時休校に伴い、例年行っていた学校菜園の活動は、行うことが出来なかった。しかし、菜園ボランティアの方たちのご厚意によって1年生は、4コマ授業の取組やジャガイモ植えの体験をすることができた。2年生は、地域の公園、3年生は、神社、4年生は浜なしの学習を、5年生は地域の公園に学習会を、6年生は、おきなを学ぶことが出来た。 | B |
| 学校運営協議会 | ①学校運営協議会の組織を活用した学校力向上に向けてのアイデアを募集し、検討していく。②職員に必要に応じての理解を図ることができた。○学校においてはたき方改革についての理解と協力を得ている。 | 学校評価を基に、自校の良さや課題を理解し、より良い学校づくりに向けるとともに、その根拠が考慮される機会をもち、児童、教職員の学校運営改善の意識を高めた。教職員が心身共に健康に生活できるような環境づくりに向け、限られた時間の中で成果を上げる働き方を意識した改革を進め、改善していくことができた。 | B |
| いじめへの対応 | ①担任が一人で抱えない、全職員が見守り、指導にあたる体制、雰囲気や醸成していく。②小さな取組でも見逃さず、一人で抱えず、いつでも共有することを通して、いじめを防ぐ。 | 児童一人ひとりを丁寧に見取り、いじめを早期に発見し、解決に向けて被害児童に寄り添った丁寧な対応を児童支援専任を中心として組織的に行った。また、被害、加害児童の保護者にも事実関係や学校としての対応を丁寧に伝え、誰もが安心して過ごせる環境づくりに努めた。 | A |
| 人材育成・組織運営(働き方改革) | ①資質・能力を育成する授業を明らかにするとともに、授業力の向上の具体的な方法を明らかにする。②子どもに関わる時間を確保するために、業務の精選をするとともに、時間の使い方を意識して、子ども中心の学校運営のための働き方改革をハード、ソフト両面から検討し実施する。③主要会、推進委員会など、各会議の役割を明らかにする。 | 学校評価を基に、自校の良さや課題を理解し、より良い学校づくりに向けるとともに、その根拠が考慮される機会をもち、児童、教職員の学校運営改善の意識を高めた。教職員が心身共に健康に生活できるような環境づくりに向け、限られた時間の中で成果を上げる働き方を意識した改革を進め、改善していくことができた。 | A |
| ブロック内評価後の気付き | ○学習に向かう姿勢、表情、ノード指導などしっかりと指導され、落ち着いた学習環境が実現している。○中学校との合同交流、吹奏楽交流、部活動体験、生徒会訪問など、児童生徒との交流活動は、双方により影響があり、今後もより良い交流の形を模索しつつ継続していく。○中学校ブロックの授業交流、夏休休業中の研修等、子どもの理解や授業力向上のためにも有効であった。 | ○小中連携担当者会議を行い、感染症防止対策をはじめ、卒業生の行事開催、来年度の行事予定等の情報交換を行うことができた。児童指導においては児童支援専任を窓口にも頻りに情報交換を行い、児童指導に生かすことができた。また、コロナ禍のため部活動体験はできなかったが、中学校より生徒会や部活動の紹介DVDが届き、6年生の指導に活用することができた。 | A |
| 学校関係者評価 | ○学校運営協議会を定期的に開くとともに、学校だよりで学校の方針、子どもたちの活動の様子が記述されているので、学校の動きがよりわかりやすい。○問題が発生していないことが、実績として評価できる。○挨拶をする子どもとそうでない子どもが、これからも課題である。 | ○コロナ禍においても、学校が感染症に気を付けながら、限られた条件や時間の中で最大限の教育効果を出しているように工夫した取組を行っている。保護者や児童、教職員の学校評価アンケート結果の細かくてまた公開してくれてありがたい。地域として協力できることはできるだけしていきたい。今の山下みどり台小の子どもたちに必要な力を見極め、子どもたちのためにいい方法は何かののかという視点で授業や教育活動を進めてほしい。子どもたちの道路の歩き方やあざさつ等がさらによくなるように」というようなご意見をいただいた。 | A |
| 中期取組目標振り返り | ○半数以上が異動により変わった職員集団に対して、取組目標の共通理解を丁寧に行っていた。めざす子ども像についても、その根拠が新学習指導要領の理念に沿っていることによりは、本邦の強みと弱みを分析し、取り組むべきことの共有と実際の取組の理を促す。手だてを打ち、少しずつではあるが、効果が上がってきている。ただ、知識・技能偏重の方に拘泥する面もあるため、次年度も丁寧な目標共有を行うとともに、具体的な手だてを振り返り共有する必要がある。○働き方改革については、手だてでの工夫はかなり進んだが、意識面での改革を進める必要がある。 | ○コロナ禍での学校運営であったが、限られた条件の中でもより充実した教育活動を行うと教職員連は、積極的に行き、実行していくことが出来た。地域、保護者、児童、教職員の学校評価アンケートの結果から、中期取組目標はおおむね達成できていると捉えている。いじめ、不登校についても予防的取組をすすめる、発生時には早期の段階で対応し、対象児童と保護者の気持ちに寄り添った丁寧な対応を行うことが出来た。次年度は、教職員個々の授業力、指導力、対応力の向上を目指した校内職員研修の充実と働き方改革の推進を図っていく。 | A |

| 重点取組分野 | 令和3年度 | 自己評価結果 | 総括 |
|------------------|---|---|----|
| 確かな学力 | 児童にとって分かりやすく楽しい授業を行い、基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力、学びに向かう力、学ぶに向かう力を育成する取組をいっそう進め、粘り強く学習に取り組む姿勢や、新たな発見を大切にしようとする子どもたちを育てる。 | 児童の実態を把握して基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力、学びに向かう力、学ぶに向かう力を育成する取組をいっそう進め、粘り強く学習に取り組む姿勢や、新たな発見を大切にしようとする子どもたちを育てる。 | B |
| 豊かな心 | 豊かな体験活動を通して児童の豊かな心と規範意識や礼儀を大切にする態度を育て、自他の存在を認め、自然や社会、みんなのことを大切にすることができる子どもたちを育てる。 | 児童生活全般を通してより良い心と規範意識や礼儀を大切にする態度を育て、自他の存在を認め、自然や社会、みんなのことを大切にすることができる子どもたちを育てる。 | A |
| 健やかな体 | 児童の健やかな体を育むために、自らの健康に意識を適切に行い、ガイドラインに則った運動を通して自らの体力向上に努め、互いに高め合い、健康な体づくりをする子どもたちを育てる。 | 児童や保護者に感染症防止に向けての指導や連絡を適切に行い、ガイドラインに則った感染症防止対策を行うことができた。養護教諭が学級担任と連携し、積極的に保健指導や授業を行い、子どもたちが自分の健康を守ることに意識を高めた。 | B |
| 児童指導 | 児童指導専任を核とした指導体制の強化を図る。問題となる事象が発生した場合にも、組織的に対応して早期解決を図る。児童の規範意識や礼儀の構築を進めることが出来た。職員個々の対応力、指導力を高める職員研修も、安心して過ごすことのできる学校風土づくりをする。 | 児童間の問題や家庭内での問題、特別な配慮と支援が必要な児童への対応等、実践を通して児童支援専任教諭を中心とした支援・指導体制の構築を進めることが出来た。職員個々の対応力、指導力を高める職員研修も、安心して過ごすことのできる学校風土づくりをする。 | A |
| 特別支援教育 | 特別支援教育コーディネーターを柱とした組織を構築し、学校全体としての特別支援教育の体制を取り、充実を図る。また、特別な支援が必要な児童や、困り感をもっている児童の対応に、特別支援教室(アスペルター)等の組織的な取り組みを進める。 | 特別支援教育コーディネーターを柱とした組織を構築し、学校全体としての特別支援教育の体制を取り、充実を図る。また、特別な支援が必要な児童や、困り感をもっている児童の対応に、特別支援教室(アスペルター)等の組織的な取り組みを進める。 | A |
| 地域連携 | 学校ボランティア組織(エプロン先生、読み聞かせ、学校応援隊、学校菜園)の方たちと、教職員が連携を密にして豊かな教育資源や人材を有効活用し、児童の豊かな学びの充実を図る。 | 学校ボランティア組織(エプロン先生、読み聞かせ、学校応援隊、学校菜園)の方たちと、教職員が連携を密にして豊かな教育資源や人材を有効活用し、児童の豊かな学びの充実を図る。 | A |
| 学校運営協議会 | 学校評価のアンケート結果や考察からよりよい学校づくりに向けてのアイデアを募集し、検討していく。②職員に必要に応じての理解を図ることができた。○学校においてはたき方改革についての理解と協力を得ている。 | 学校評価のアンケート結果や考察からよりよい学校づくりに向けてのアイデアを募集し、検討していく。②職員に必要に応じての理解を図ることができた。○学校においてはたき方改革についての理解と協力を得ている。 | A |
| いじめへの対応 | 児童一人ひとりを丁寧に見取り、いじめを未然に防いだり、早期に発見し、早期解決に向けて被害児童に寄り添った丁寧な対応を児童支援専任を中心として組織的に行った。また、被害、加害児童の保護者にも事実関係や学校としての対応を丁寧に伝え、誰もが安心して過ごせる環境づくりに努めた。 | 児童一人ひとりを丁寧に見取り、いじめを未然に防いだり、早期に発見し、早期解決に向けて被害児童に寄り添った丁寧な対応を児童支援専任を中心として組織的に行った。また、被害、加害児童の保護者にも事実関係や学校としての対応を丁寧に伝え、誰もが安心して過ごせる環境づくりに努めた。 | A |
| 人材育成・組織運営(働き方改革) | 学校評価を基に、自校の良さや課題を理解し、より良い学校づくりに向けるとともに、その根拠が考慮される機会をもち、児童、教職員の学校運営改善の意識を高めた。教職員が心身共に健康に生活できるような環境づくりに向け、限られた時間の中で成果を上げる働き方を意識した改革を進め、改善していくことができた。 | 学校評価を基に、自校の良さや課題を理解し、より良い学校づくりに向けるとともに、その根拠が考慮される機会をもち、児童、教職員の学校運営改善の意識を高めた。教職員が心身共に健康に生活できるような環境づくりに向け、限られた時間の中で成果を上げる働き方を意識した改革を進め、改善していくことができた。 | A |
| ブロック内評価後の気付き | ○今年度小中合同授業研究会は実施できず、中学校での授業体験や部活動学習も行えなかったが、専任含小中ブロック連絡会で学校の授業の様子や児童生徒について情報交換を行い、見守り活動の継続を意図した教育実践に努めた。各自治会の地域行事も中止となり、児童生徒が地域でつながる機会も減っている。新しい生活様式の中で連携の在り方を探りつつ、今後も児童生徒、教職員共々できる形で小中交流を継続し、9年間の発達段階を考慮した教育課程づくりや児童生徒指導の相互理解を深めていきたい。 | ○今年度小中合同授業研究会は実施できず、中学校での授業体験や部活動学習も行えなかったが、専任含小中ブロック連絡会で学校の授業の様子や児童生徒について情報交換を行い、見守り活動の継続を意図した教育実践に努めた。各自治会の地域行事も中止となり、児童生徒が地域でつながる機会も減っている。新しい生活様式の中で連携の在り方を探りつつ、今後も児童生徒、教職員共々できる形で小中交流を継続し、9年間の発達段階を考慮した教育課程づくりや児童生徒指導の相互理解を深めていきたい。 | A |
| 学校関係者評価 | いっしょに、高め合い、共に成長できる学校づくり。異学年交流、一学年菜園の取り組みが、保護者から特に高い評価を得るようになった。今年度は、特別な配慮を要する児童や家庭の認知も高く、その対応に児童支援専任、養護教諭、学級担任、管理職、学校カウンセラー、SSW、区役所、児童相の関係機関と連携を密にして丁寧な対応を行った。客観的根拠に基づく学校教育の改善に向けてより良い学校づくりに向けた教職員一人一人の参画意識をさ | いっしょに、高め合い、共に成長できる学校づくり。異学年交流、一学年菜園の取り組みが、保護者から特に高い評価を得るようになった。今年度は、特別な配慮を要する児童や家庭の認知も高く、その対応に児童支援専任、養護教諭、学級担任、管理職、学校カウンセラー、SSW、区役所、児童相の関係機関と連携を密にして丁寧な対応を行った。客観的根拠に基づく学校教育の改善に向けてより良い学校づくりに向けた教職員一人一人の参画意識をさ | A |